

# 平成23年 第7回（12月）吉川市議会定例会

## 一般質問通告書

12月14日（水）			
質問者			
通告第 1号	2番	中嶋 通治	
通告第 2号	12番	互 金次郎	
通告第 3号	13番	五十嵐惠千子	
通告第 4号	14番	小野 潔	
通告第 5号	19番	小林 昭子	

12月15日（木）			
質問者			
通告第 6号	4番	安田 真也	
通告第 7号	5番	稲垣 茂行	
通告第 8号	18番	遠藤 義法	
通告第 9号	11番	高野 昇	

12月16日（金）			
質問者			
通告第10号	10番	佐藤 清治	
通告第11号	6番	伊藤 正勝	

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
通告第1号 2番 中嶋 通治	放射能除染対策について	①中井沼公園、第一調整池、アクアパークについて計測は行われたのか。 ②国基準によれば除染の目安として測定高50～100センチの測定高さで毎時1マイクロシーベルト以上とあるが、当市において地表面1センチで実施する考えがあるのでしょうか。また、現状では敷地をメッシュで切ってポイントを計測していますが、側溝の上、縦樋の下等、数値が高く出ると判っている場所について、今後計測する予定はあるのでしょうか。 ③住宅地の除染計画について、個人で測定し、基準値を越し、個人で除染した場合に保管場所は如何されるのか。 ④通学道路等広範囲に亘る除染について市民と協働しての計画はあるのでしょうか。	市長 担当部長
	放射能に汚染された土砂の不法投棄について	①新聞報道で知る限りにおいて、国民の安心安全を守る立場にある環境省の職員が常磐道傍の市道に汚染された土砂を不法投棄したとのことであるが、現状はどの様になっているのか。また、高山政務官が謝罪に訪れたとの事ではありますが、本来は環境大臣が謝罪するべきであると思っておりますが見解をお伺いします。	市長
通告第2号 12番 互 金次郎	視覚障がい者や高齢者をサポートする「読み書きサービス事業」の導入を	目が不自由な方やご高齢の方から「書類の字が小さくて読めない」「書類の内容が良く理解できない」「字を書くのが苦手だ」等の声があり、「わかるように説明して代筆してもらえると助かる」とのご要望をいただいております。 視覚障がい者や視力が低下した高齢者をサポートする「読み書きサービス事業」を展開する自治体が注目されています。当市におきましても同事業の導入を検討すべきと考えますが、ご見解は。	市長 担当部長
	安全で安心して暮らせるまちづくりのため「防犯灯照度アップ事業」の展開を	過日、「夜間のいちょう通りの歩道は暗く危険だ」との声をいただきました。現在は、LED照明など従来型の防犯灯と比較し、省電力・長寿命・照度アップと費用対効果の高い防犯灯も普及し、防犯灯照度アップ事業を展開する自治体もあります。主要地点の照度の測定調査を実施し、暗く危険な箇所では高照度のもとのと交換したり、照度確保の妨げとなる樹木の剪定をする等、「防犯灯照度アップ事業」を展開することにより、挙動不審者の早期発見や心理的安心感の確保など、歩行者のより一層の安全・安心が図られるものと考えます。ご見解をお伺いします。	市長 担当部長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
(続) 通告第2号 12番 互 金次郎	緊急災害時の情報提供の備えとして「エリアメール」の導入を	緊急速報エリアメールは、緊急地震速報や自治体配信の災害避難情報などを特定地域に、一斉配信することができる携帯電話会社のサービスです。電源さえ入っていれば登録の必要はなく、対象地域のエリア内では自動的に受信ができます。近隣自治体での導入も進んでいます。当市も緊急災害時の情報提供の備えとして「エリアメール」の導入を検討すべきと考えますが、ご見解は。	市長 担当部長
	吉川団地西側さくら通り交差点(香取橋手前)の信号機を音響装置付信号機に	吉川団地のご高齢の方から「目の手術を2回行い、視力が落ちて外出も大変です。さくら通りの信号機に音声がつくと安心して渡れるんですが」とのお話をいただきました。吉川団地在住の方で視覚障がいによる手帳をお持ちの方は8人です。1級3名、2級1名、5級3名、6級1名です。相談を受けた方は、高齢ですが手帳はお持ちではありません。手帳は持たずとも視力に不安を抱える高齢者は、今後さらに増えるものと考えます。吉川団地西側さくら通り交差点(香取橋手前)の信号機に視覚障害者用付加装置(音響装置)を設置すべきと考えますが、ご見解は。	市長 担当部長
	測量基準点の改測について	過日の新聞報道によると、国では東日本大震災により国内測量の基準となる日本経緯度原点が27cm東にずれ、標高調査の基準となる日本水準原点が2.4cm沈下したとして、両原点の位置を改正する政令を11月21日施行します、とのことでした。当市の、震災による測量基準点への影響と、それに伴う改測(図りなおし)についてご見解をお伺いします。	市長 担当部長
通告第3号 13番 五十嵐恵千子	女性の視点からの防災対策について	東日本大震災から9カ月が過ぎ、被災地では本格的な復旧・復興が急がれる一方、全国各地では今回の震災を教訓に、既存の防災対策を見直す動きが活発化しています。そうした中、女性の視点で既存の防災対策を見直すとともに、新たな対策を検討するため、公明党は「女性防災会議」を立ち上げ、10月には、被災地3県をのぞく全国の公明党女性議員が「女性の視点からの防災行政総点検」に取り組みました。以下、総点検の集計結果を踏まえ、質問いたします。 ①女性の意見を普段の防災対策や地域防災計画にしっかりと反映できるようにすべきと考えます。取り組みについてお伺いします。 ②避難所運営訓練(HUG等)を取り入れ、自主防災組織と連携した防災訓練を実施すべきと考えます。ご見解をお聞かせ下さい。	市長 担当部長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
(続) 通告第3号 13番 五十嵐恵千子		③当市、災害時の緊急物資の中に、女性や子ども、高齢者、障がい者に配慮した物資が備蓄されていますか。 ④被災者支援システムを活用し、災害時要援護者リストを作製・活用すべきと考えます。ご見解をお聞かせ下さい。 ⑤防災教育を充実させ、災害時に地域の窓口となる、各小中学校の防災担当職員を配置すべきと考えます。当市の取り組みは。	
	子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチン無料接種の継続を	今年度4月から、子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用を市が助成し、無料で受けることができようになりました。対象となるご家庭から喜びの声を多くいただいておりますが、平成23年度末までとなっている国の補助事業が期限切れになれば、無料接種を打ち切らざるを得ない事態も予想されます。そうした心配から6月議会では「3ワクチンの定期接種化を求める意見書」を国へ提出させていただきましたが、間に合わない場合、当市はどのようにするおつもりでしょうか、お考えをお聞かせ下さい。	市長 担当部長
通告第4号 14番 小野 潔	住宅リフォームポイント制度導入について	先の9月議会に請願第5号「住宅リフォーム助成制度創設を求める請願」が出され建設生活常任委員会にて審査がなされました。その際、公明党市議団では「住宅リフォーム助成金制度」ではなく「住宅リフォームポイント制度の創設」を主張、提案をさせていただきました。住宅リフォームにより一定のポイントを付与し、そのポイントを吉川市内で使えるような商品券に代え、広く地域経済の活性化に役立てるものです。当市において住宅リフォームポイント制度の導入を図ってはと考えますがいかがですか。	市長 担当部長
	駅南地域の市内路線バス経路の道路損傷状況等の点検、整備を	駅南地域の市内路線バス経路は、けやき通りを中心に東西の市街地を運航しております、市民からはバス停が近く大変に便利との声があり喜ばれているところです。しかしながら道路の簡易的な補修で済ませている個所では、ガス管工事等により凹凸ができ、ひび割れなどの損傷が目立ち、路線バスがバウンドをして振動が激しい場所があります。そこで市街地を走るバス経路の道路損傷状況等の点検、整備をどの様に実施しているかお伺い致します。	市長 担当部長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
<p>(続) 通告第4号 14番 小野 潔</p>	<p>自転車安全走行対策について</p>	<p>警視庁は23年10月25日、自転車の交通マナーの向上を目指すため、自転車交通秩序の総合対策をまとめました。歩行者の安全を確保するため、これまでは原則として「幅2メートル以上の歩道」で認めてきた自転車の通行を「幅3メートル以上の歩道」に見直し、原則として自転車を車道に走らせることで、歩行者との分離を図るとしております。そこでお伺い致します。</p> <p>①中学生の自転車通学時の対策、対応としてどのようなこととお考えですか。</p> <p>②高校生以上の一般の方への対策、対応はどのようにお考えですか。</p>	<p>市長 担当部長</p>
<p>通告第5号 19番 小林 昭子</p>	<p>小松川工業専用地域問題</p>	<p>5月新規事業(産廃)の申請で市環境条例に基づき説明会が開かれたが市民の納得の得られない形で閉会。第2回目の説明会がおあしすで開かれたがやはり市民の納得する結果にはならなかった。県は、粉じんの被害を防ぐため、「環境防止条例」で事業所を「建屋内」としているが、究極的には国の基準より厳しく作ったという条例であり、「指導の範疇」を出ることができない。その結果、県条例は徹底させることができず、産廃事業所が進出するたびに市民の市政に対する不信は増す結果となっている。平成20年6月議会でこの地域の問題解決に向け市は、「・・・企業が転出し、地主が土地を売る場合なるべく事業者が入ってこない様・・・市の中で立地に対するハードルを上げていく・・・」としたが今回のケースでは成功していない。また、同議会で「用途地域の変更」を求めた質問に対し、市は「特定の業種の立地を制限する方法として、地区計画や建築協定など考えられる・・・研究していく」と答弁したが、平成23年度同趣旨の質問に対して市は「昭和45年の市街化区域編入時、住宅等の混在を排除し、またこれを防止し、工業に特化した土地利用を図る工業専用地域に指定され、その用途の制限のもとで現在の建物が立地している。地区計画や建築協定などの制限により、住環境の対応等が新たに必要となる場合、既存工場等への規制が必要となることから、土地利用や動向を踏まえると、地区計画や建築協定制度の導入については、関係する地権者の理解を得ることは困難。」との見解を示した。しかし当地域の特性を考えると事態は深刻です。質問します。①23年6月の見解に至るまでに地権者、工業会、関係機関とどのような話し合いを何回行ったのか。②国・各関係省・県が、住民の公害に対しバラバラな見解では解決できない。統一すべく働きかけるべきでは。③市の環境条例に「高圧線下に建屋を必要とする事業所は操業することはできない」と、地権者に徹底理解を求め、市の責任において明文化すべき時ではないか。</p>	<p>市長 担当部長</p>

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
(続) 通告第5号 19番 小林 昭子	原発から放射能汚染を防ぐ具体的対策を求める	①三輪野江常磐道付近に「福島のとが散布」される事件が報道されました。驚くのは、周辺に影響はないかと調査した際、福島の土より調査測定した周辺土壌の方が高く、毎時0.3マイクロシーベルトと報道されたことです。三輪野江地域の測量と除染を求めます。 ②民家では雨どいの下(地中に入っているものではなく下が土になっている所)は非常に高い。積極的に測定を進め、市が除染の支援を。 ③市道の排水路(U字溝)のコーナーになっている部分(蓋が格子になっている)は溝に土がそのまま堆積されているのか、放射線量が高い。測定をして除染を。 ④野菜の放射線量を測定したいと言う声がよく聞かれる。農協はじめ手軽に地場野菜が測定できる工夫を。 ⑤台所で手軽に活用できる、(放射能)キッチンパンフを作り配布を。	市長 担当部長
	高齢者肺炎球菌ワクチンに公費助成を	年間112,000人が肺炎で死亡しており死亡原因の第4位。肺炎の死亡者の95%は65才以上の高齢者です。65才以上の人がかかると、4人に1人が肺炎になり、風邪やインフルエンザが引き金となって細菌やウイルスが気管支や肺胞で繁殖して肺炎になる。冬は夏に比べて3~4倍発生が多く、風邪は安静にしていたら治ることが多いが、肺炎は放っておいたら治らず死に至ると指摘されています。この間ワクチンの公費助成が実現している。予防できる高齢者の肺炎対策を実施することを強く要望する。	市長 担当部長
	二ツ沼周辺生活道路の整備改善を求める	生活道路の改善を、との要望は絶えることはありません。「二ツ沼2丁目周辺を一度見に来てください。道路のきたなさ、通勤通学に困っています。」と声が寄せられています。この地域の道路は福祉関係の送迎車利用者から振動が大きいので改善をと言う声が出ています。対応を求めます。	市長 担当部長
通告第6号 4番 安田 真也	ペットと共生できる街づくり	①ドッグラン構想の進展と方向性について ②地域防災計画における被災ペットの位置づけについて	市長 担当部長
	使い勝手のよい行政サービスへ	①コンビニでの住民票等交付サービスの進展、方向性について ②クレジットカード活用と、利用金融機関の拡大について(納付) ③AEDのコンビニ設置について	市長 担当部長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
通告第7号 5番 稲垣 茂行	フッ化物応用協議会について	①8月より吉川市フッ化物応用協議会が開催されているが、協議会の目的、検討事項は ②委員12名はどのような基準で選出したのか	市長 担当部長
	「集団フッ素洗口・塗布」を直ちに中止すべきでは	日本弁護士連合会より出された『集団フッ素洗口・塗布の中止を求める意見書』に沿って、現在実施されている『集団フッ素洗口・塗布』を直ちに中止すべき、と考えるが市の見解を問う。	市長 担当部長
	フロリデーション推進活動を直ちに中止すべきでは	①フロリデーション推進協議会と一体となって行なっている、フロリデーション推進の啓発活動を直ちに中止すべき、と考えるが市の見解を問う ②啓発活動にかかる経費の総額、内訳及び負担はどこが行なっているのか(PＲ誌・パンフレット・出前講座・体験給水・人件費等)	市長 担当部長
	産業廃棄物中間処理業者進出にあたり、市はどんな対応をしたのか	①小松川工業団地内・工業専用地区に進出を予定している産業廃棄物中間処分業者(エスオーティー)に対する、市のこれまでの対応と今後の取り組みについて伺う ②進出に反対する吉川市民11,000人以上の署名に対し、市はこれをどう受け止めているのか ③小松川工専地区の産廃団地化(産業廃棄物中間処分業者の集中)に対し、市は今後どのような対策を講じるのか	市長 担当部長
通告第8号 18番 遠藤 義法	市内公共交通網の整備を早急に	①交通不便な地域、障がいを持った方、高齢者のみなさんは気軽に外出できる交通手段確保を求めています。「バス事業者への要望や協議を通じて改善を図ってまいりたい」との答弁も頂いております。その後の経過と市民要望に沿った今後の取組は。 ②バス・タクシー事業者、利用者、吉川市の三者による協議会の設置を求めてきたが、今後の考え方は。 ③吉川美南駅の開設に伴う交通網の整備内容は。 ④県道越谷流山線から新駅への道路として日本船燈(株)南側道路を計画、整備している。この道路を利用した場合、現在でも埼玉クリニック前交差点が大変渋滞しており、右折帯を設けるなど対策が必要であると考えますが、対応は。	市長 担当部長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
	2012年度予算編成にあたって	来年度予算編成にあたり、市長は重点施策をどのように考え、職員に対して事業と予算要望の基本的な内容を示したのか。とりわけ第5次吉川市総合振興計画、前期計画の初年度であり、放射能汚染対策、防災対策、市民の健康づくりの本格的（生活習慣病予防）実施、生活困窮者への施策は。市民税、地方交付税含め財源内容と事業費等の予測について伺います。	市長 教育長 担当部長
	きよみ野地域に防犯灯設置を	きよみ野地域の防犯灯、街路灯は計画的にすすめられてきたが、早期設置を求める箇所もある。今後の計画と対応は。	市長 担当部長
(続) 通告第8号 18番 遠藤 義法	水道水フロリデーション推進は見直しを	<p>市は、水道水フロリデーションを推進し、市民への啓発活動をすすめていますが、市民から疑問の声や反対の声も多く寄せられています。</p> <p>①前期基本計画では「虫歯予防に有効なフッ化物利用を推進します」と記載されています。計画の具体的内容、導入時期などの考え方は。</p> <p>②水道水フロリデーションについては、学者、医師などで見解が分かれています。市民に対して正確な情報源とはなっていないのではないかと。改善すべきでありシンポジウム開催などの計画は。</p> <p>③健康被害の懸念に対してデメリットがないという根拠は。国が導入しない理由、あるいは地方自治体の対応を国に問い合わせたことはあるのか。</p> <p>④水道はすべての市民に一律に供給されます。安全性や費用負担などを含めての住民合意の確認の方法は。</p> <p>⑤水道法の「清浄にして豊富低廉な水の供給」から担当課の見解は。</p>	市長 水道課長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
<p>通告第9号 11番 高野 昇</p>	<p>吉川市放射性物質除染計画の実施にあたって</p>	<p>東京電力福島原発事故によって、大量かつ広範囲に放射性物質＝「死の灰」が放出され、国民の放射能への不安が広がっています。とりわけ、放射能への感受性が高い子どもの健康を守ることが、いま日本社会の大問題となっています。市として「放射性物質除染計画」を策定し対策を図っておりますが、一日も早く市民の不安を解消するための有効な対策となることが望まれています。以下の内容を求め質問します。</p> <p>①測定は個人住宅も含め全市的に実施し、住民のための「放射線量等分布マップ」(汚染マップ)の策定を。 測定は三輪野江地域をはじめ、放射能汚染が心配されるすべての地域を住居ごとに測定し、放射能汚染マップを作成し、「私の家はどうなっているか」などについて、住民がわかるようにする。</p> <p>②高い線量の箇所は速やかな除染対策を。 当面は学校など公共的施設を対象として実施されているが、放射線量の高い箇所については、一刻も早い除染対策が求められている。除染対策の優先順位は民間施設も含めて判断すべきではないか。</p> <p>③対策にふさわしい検査機器の整備と体制を 放射性物質汚染の全市的な実態を一刻も早く正確に把握し、必要な対策を講じるためには、食品検査用の測定器を含め、検査機器も体制も更に整備する必要があるのでは。</p> <p>④内部被ばくを含めた被ばく線量調査を 放射能による健康被害は、急性障害だけでなく、晩発性障害がある。放射線被ばくは、少量であっても、将来、発がんなどの健康被害が起きる危険性がある。放射線被ばくの健康への影響は、「これ以下なら安全」という「しきい値」はなく、「少なければ少ないほど良い」というのが放射線防護の大原則である。福島県は、200万県民全員を対象に健康調査を実施し、長期間にわたって放射線被ばくの影響を調べることを決めている。吉川市は埼玉県内の中で放射線量の測定値が高く、子どもたちへの晩発性障害が心配されている。市として、内部被曝による影響を研究するとともに、子どもたちへの系統的な健康調査が必要ではないか。</p> <p>⑤学校給食食材の放射性物質検査を 県内でもすでに実施している自治体もあり、保護者からの不安の声と検査を望む声も多い。吉川市でも実施を。</p>	<p>市長 教育長 担当部長</p>

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
(続) 通告第9号 11番 高野 昇	「子ども・子育て新システム」で保育はどうなるか	7月29日、政府が「子ども・子育て新システムに関する中間とりまとめ」を決定し、今議会に陳情も出されている。「中間とりまとめ」に対する市の見解、及び新制度が施工された場合、市の保育実施義務はどう変わるのか、保護者の費用負担などへの影響はどうかなどについて伺います。	市長 担当部長
	安心安全のための道路整備の促進を	①平沼地区道路後退用地の整備は 整備を求め、何回か質問もさせていただきました。住民の方からも急いで整備を求める声も再三聞かれます。整備の予定について伺います。 ②県道関会野谷線北側の歩道整備を 車椅子のご主人が定期的にクリニックで受診されている方から、歩道の段差や傾きがあり車椅子での通行がとても危険であり整備をしてほしいとの要望をお聞きしました。植え込みのある場所は道路幅も狭く、自転車同士のすれ違いの際も危険と思われます。早急な整備を求めます。(特に関橋～磯久クリニックまでの歩道)	市長 担当部長
通告第10号 10番 佐藤 清治	国保税過重な負担への対策は	所得に対し、あまりにも重い国保税を支払えるものにして欲しいとの要望が数多く寄せられている。市としてこの声にどのようにこたえるのか、具体的に伺います。	市長 担当部長
	安心できる介護をどう実現するのか	2012年度から第5期事業計画が始動することになるが、市としてこれまでの事業についての総括と今後の事業への課題についてどのように考え、「第5期」に反映するのか。	市長 担当部長
	原発問題と放射線に対する市の対応は	①原子力政策に対する市長の見解を求めます。 ②市内の放射線量の測定と市民の安全確保に対する市としての対応について伺います。	市長 担当部長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁を求める者
通告第11号 6番 伊藤 正勝	継続的課題について 新駅・跡地等について	①新駅開業予定日は。 ②ダイヤ改正の内容。全便停車と受けとめているが。始発や終電の可能性は。「3線」を活用するケース。年間の3線使用予測は。 ③乗降客の予測は。当初は、10年後はどうみているのか。 ④駅前広場（東）の本格整備の基本的考えは。時期。広さ。内容のイメージは。 ⑤武操跡地の整備はいつ終了か。跡地の売り出し、公募の時期、方法、内容は。 ⑥新駅と跡地への運輸機構の総負担額は。当初見通しとの変更は。 ⑦JR負担額は。変動は。 ⑧進出企業等の打診などURの誘致地区含めその動向について。 ⑨周辺地区（60ha余）の開発プランについて。現在の状況。市（市長）としての考え方の提示を。第5次総振との関係での説明を。	市長 担当部長
	新庁舎について	①9月議会の答弁内容より、進んだことは。 ②変更は。（庁舎検討協議会発足の時期、メンバー、コンサルなど） ③耐震診断の時期。公表は。	市長 担当部長
	放射線問題	①ホットスポット。校庭等の除染。その取り組み内容。効果。処理。今後について。 ②検知器貸し出し。11月臨時議会でその考えはない、との答弁だったが。理由。貸し出し方法。期間。市民要望の実情など。	市長 担当部長
	自転車交通問題	①吉川での事故。 ②利用者の推定の数。そのうちの駅の利用者は。 ③市民に協力求める指針は。（市の基本的考え） ④歩道の実情と整備方針	市長 担当部長